

祖母を訪ねて



九十歳になる祖母は、田舎の小さな漁師町で生活しています。最近、認知症の症状が見られてきたため、長男家族の自宅から港に近いグループホームへ移りました。

これまでは、小さな畑で玉ねぎを作ったり家事をしながら過ごしてきましたが、ある日自宅のちょっとした段差で転倒した際、足を骨折し、車椅子生活になりました。デイケアやショートステイでリハビリを続けながら、何とか自宅で暮らしてきましたが、お隣の方の食事を食べてしまったり、失禁が多くなり、自宅での介護が大変になってきたのです。

先日、何年かぶりに祖父の墓参りも兼ねて、妻と子供達を連れて顔を見に行ってきました。車椅子に座る祖母は、ひとまわり小さくなっていましたが、誰だかよく分からない孫（私）やその家族（妻・子供達）に最大限の笑顔を見せてわざわざ訪ねてきた私達を歓迎してくれました。

しかし、歯が無いので上手く話せず、耳も遠いため会話がさっぱり噛み合わず、三分もすると同じ話を繰り返します。見かねた職員さんが、渡してくれた紙に私達の名前を書く、そんなメモを大切そうに何度も見返していました。

筆談をしながらも、ついつい声が大きくなってしまいうので、祖母を外へ連れ出しました。建物の隣りには舟がたくさん泊まっていて、子どもの頃、夏休みに祖母の家で見た風景が変わらず広がっていました。何も無いところだろうと祖母は言いますが、東京から来た私達からすれば、海や舟など珍しいものばかりです。

喜ぶ子供達が岸壁に近づくと、あぶない、あぶないと心配し、話に退屈しモジモジしていれば、トイレは大丈夫かと心配します。（自分こそトイレは大丈夫かと言いたかったのです。が…）

今度は、いつ会えるか分かりませんが「夏になると、ここから大きな花火が見えるから、またおいで」と、昔と変わらない言葉に見送られ帰京しました。

言語聴覚士 末岡 広光

特集 平成27年度 介護保険・こう変わった?! 第5回 「リハビリテーションマネジメント加算(Ⅱ)」とは

平成27年度の介護保険改正で大きく変わったポイントをこれまで4回にわたり特集してきました。最終回となる5回目は、通所リハビリに関するリハビリテーションマネジメント加算(Ⅱ)(以下リハマネⅡ)について解説します。

実は、このリハマネという制度は以前からありましたが、今回の改正でリハマネⅠとリハマネⅡの2種類に分けられました。特にリハマネⅡでは、以下4つ(下線部)の特徴があり、当苑でも新たな取り組みとして運用を開始しています。

リハマネⅡでは、利用開始から6か月間、毎月リハビリ会議を開催します(6か月後は3ヶ月毎)。会議では、施設の医師を中心に、ご利用者やご家族、リハビリ職員、施設ケアマネジャーのほか、居宅ケアマネジャー、ヘルパー、福祉用具業者など他のサービス事業者が一堂に会し、リハビリの具体的な目標設定を行います。

会議では、多くの関係者が専門的立場で意見を述べ、目標の達成にはどのようにリハビリを進めていったらよいか検討します。サービスを提供する者がそれぞれの役割を具体化し、会議を通じそれが達成できているか確認を行う為、ご利用者、ご家族様のご希望に沿ったリハビリを、よりスムーズに提供することができます。

また、この場でご利用者の健康状態を確認し、医師がリハビリの計画や内容を直接説明しますので、ご利用者やご家族にとっても安心してリハビリに取り組めるようになります。会議の内容は、リハビリ職員がケアマネジャーや他のサービス事業所に積極的に情報提供を行い連携していきます。

その他、施設以外の関わりとして、リハビリ職員がご利用者の自宅を訪問し生活状況に合ったリハビリを提案します。ご自宅へ伺った際には施設での様子をお伝えしたり、ご自宅での様子をお伺いするなど、顔の見えるリハビリを実現し、安心した在宅生活の提供が可能となります。

詳しくは、お近くのリハビリ職員、またはケアマネジャーへお尋ねください。
文責 言語聴覚士 末岡広光



ご本人、ご家族、医師、ケアマネジャー、リハビリスタッフ等が集まります。

チーム紹介 番外編

第10回東京都介護老人保健施設大会 参加報告



平成 28 年 2 月 25 日(木)第 10 回東京都介護老人保健施設大会が東医健保会館で開催されました。当苑からは「アットホームな施設を目指して」というタイトルで、国立あおやぎ苑でのさまざまな活動を、成澤望(既存棟 4 階)、大畠 有貴(縄文棟 2 階)、竹本 靖(縄文棟 4 階)の 3 名の介護福祉士が発表しました。

当苑では「お花見」、「納涼祭」、「クリスマス会」の 3 大行事の他、「昭和記念公園コスモス散策」、「寿司キャラバン」など特色あるさまざまな行事を始め、コミュニケーションロボットの導入、職員の交流を目的にした「野球部」の活躍、地域行事への参加など、地域密着、アットホームな施設を目指してさまざまな活動に取り組んでいます。

発表後は、他の施設から「(国立あおやぎ苑のように)職員が積極的に行事に関わるようになるにはどうしたらよいか」という質問もありました。

今後も更なるパワーアップを目指して職員一同頑張っていきたいと思っております。

あおやぎ徒然草 12

国立あおやぎ苑に入所されている方が白寿となり、俳句の句集を出されました。

とても素敵に年を重ねており、季節の事柄を交え、俳句をご紹介します。

俳句に出てくる季節の言葉を季語といいます。歳時記という本には、季語がたくさん集められていて、季節ごとに分類してあります。歳時記の「六月」の頁をひらくと、こんな句が載っていました。

六月を綺麗な風の吹くことよ
正岡子規

毎日が長いと言いながら、もう半年が過ぎ六月になりました。これからくる暑さの前の雨の季節です。みどりに包まれた木々をぬって、すがすがしい風が吹いてくる濃くうすく体の中まで透き通るような美しい風です。こんな俳句に出会うとうとうしく梅雨の季節であることを忘れてしまいます。これからの暑さに負けないうちに元気を出して楽しく過ごしましょう。

日々みどり今日リハビリは太鼓打ち
柿若葉まぶしき言葉ずばり言ふ
ともかくも風鈴吊りぬ佳き知らせ
余生とて青野に風の吹いてをり
ひとり栖む一人居場所簾吊る
足指の鶏のやうなる更衣

辻 りん

作品介绍

縄文棟 2 F 入所 大森貞様 メタリックヤーン (敷物)
3 色のメタリックヤーンの糸でこつこつと縫われた作品です。



LINK くにたち 2016 受賞しました!

5 月 15 日(日)国立市大学通りで「LINK くにたち 2016」が開催され、国立あおやぎ苑もリレーマラソンに 2 チーム参加しました。茶摘み娘(?)に扮した職員の活躍もあり、一番印象に残ったチームとして「特別賞」をいただきました。



花見&園芸

春の訪れ

冬眠(?)していた入所者様、職員も、春の暖かさとともに外での活動を再開しました。花見や園芸療法で春の花と戯れています。



ご利用者様が展覧会を開催



縄文棟デイケアを利用されている鈴木康治氏の第 10 回目の展覧会が 4 月 28 日から 5 月 3 日まで国立ブランコ通りの画廊で開催されました。旧駅舎が取り壊されてから 10 年経ちますが、鈴木氏の筆により、まるで昨日のようにそのままの姿で迎えてくれ、懐かしい思い出とともに目を楽しませていただきました。

私のふるさと自慢

私の故郷、新潟について紹介したいと思います。新潟といえば、雪国や魚沼コシヒカリ、佐渡島が有名です。日本海に面し、私の育った柏崎市には原子力発電所があります。

私にとって忘れられない地元の行事は、お隣の長岡市信濃川流域で毎年 8 月に開催される長岡花火大会です。色とりどりの花火が約 2 時間に渡り打ち上げられます。その中でも、2004 年中越地震、2007 年中越沖地震の復興の願いを込めて、2005 年から続けられている「復興祈願花火フェニックス」は圧巻です。これは、音楽と共に頭上を見上げるような大きな花火が連続で打ち上げられるのですが、

最後の花火が終わると「ありがとう」のアナウンスを合図に観客が、懐中電灯や携帯電話など光るものを一斉に振るのです。演出してくれた花火師に対し、また、会場に集う見知らぬ人同士が「ありがとう」という言葉を通じて感謝の気持ちを共有する貴重なひとときに包まれます。

今回、もうじき夏ということで花火のことを紹介させて頂きました。これからも新潟にゆかりのある方、そうでない方も地元のお話しをできたら嬉しいです。

リハビリ助手 峰岡 愛

